

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」の設問の正答率が高かった。これまでの対話を通した授業の成果が見られる。 ●時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることが難しい。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見つけることが弱い。	・説明文の要旨を捉える訓練をする。短文で日々訓練する。 ・読書や新聞を読む習慣をつけ、筆者の意図を捉えることに慣れていく。 ・何を問われているか理解し、適した条件に沿って自分の考えをまとめて書く力を日々養う。
算数	○無回答がないことから、なんとか問題に対して答えようとする児童が多い。 ●問題の意図が掴めず、問われていることに正しく回答することが難しい児童が多い傾向がある。	・日々の授業の中で、式と言葉を使ってノートに自分の考えを書く習慣をつける。 ・問題場面を、図などを描いて把握したり、問題文を丁寧に読み解いて問われていることを理解したりする過程を大切にする。
理科	○児童が実際に実験を行った問題は、回答率が高い。 ○無回答が少なく、なんとかしようとする児童が多い。 ●資料を読み取り、情報を整理することが難しい。 ●記述式の問題で、書くことはできるが問われていることに正しく答えることができない児童が多かった。	・日々の授業の中で、児童同士が実験内容や授業で分かったことを対話したり、ノートに書いたりする習慣をつける。 ・授業で理解したことを自分の言葉でまとめることができるようにする。

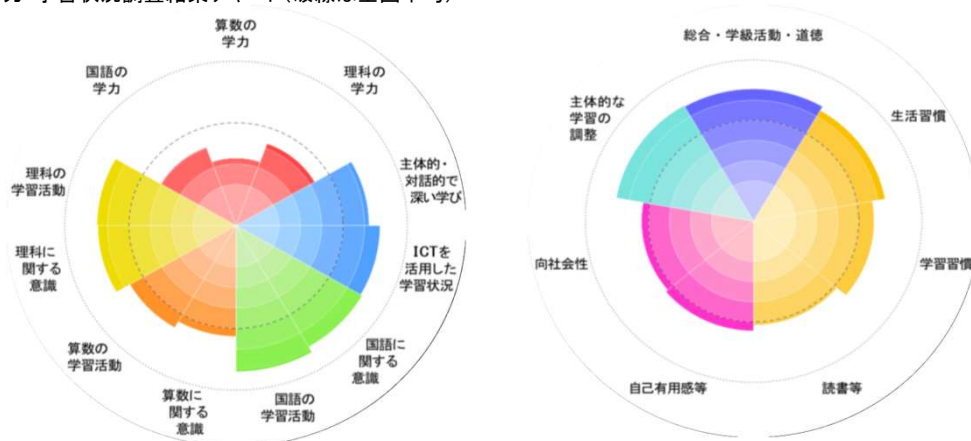
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○地域への意識が高い。 ○ICT機器を使った学習について肯定的に捉えている児童が多い。 ●自分のよさを十分に感じていない児童がいる。	・学習や生活面で教師だけでなく、子どもたち同士でお互いのよさを認め合う経験を積み重ねる。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	校内研究と関連をもたせ、友達との対話を通して学習するよさを実感させると共に、自分の考えを説明する力を付けていく。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

12 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

